

しょうれん 力障連「わ」会 報

http://challenged-catholic.net/ No.97 2022.11.29 発行

二〇二二年十一月二十九日発行（毎週火曜日）増刊AJU一四七二二号 昭和五十四年八月一日 低料第三種郵便物承認 定価一〇〇円

目次

かんとうげん が たいこうせつ むか みなさま ねが	巻頭言に代えて 待降節を迎えて皆様へのお願い	
にほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかい ささ かい かいちょう まえだ まんよう すうききょう	日本カトリック障害者連絡協議会を支える会 会長 前田 万葉 枢機卿	1
ぼうさい きたい	インクルーシブ防災への期待	2
ぼうさい かつ にち ごうう さい かんが こと	インクルーシブ防災について ～9月23日の豪雨に際して考えた事～	
しょうきたんどう かんりしゃ よこい けいすけ	書記担当・かなのすまい管理者 横井 圭介	3
わ や ぼうさいたいさく	我が家の防災対策について	3
しょうれん ぼう なら なかま で あ	力障連Zoomカフェ始まる ～新たな仲間と出会うために～	8
ながさききょうほう しょうれん ぼうぞく ながさきたいかい へ	長崎教区報より 《力障連の発足と長崎大会に向けて》	
しょうがいしゃ わたし しんこう すがた さが もと	① 障害者から私たちの信仰のあるべき姿を探し求めて！⑤	
い あい じっせん きょうかい ほんしつ ながさききょうくふくいんかすいしんぶ いわさき しんご しんぶ	癒やし（＝愛の実践）は、教会の本質 …… 長崎教区福音化推進部 岩崎 晋吾 神父	8
しょうがいしゃ わたし しんこう すがた さが もと	② 障害者から私たちの信仰のあるべき姿を探し求めて！⑥	
にほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかい ながさききょうくふくいんかすいしんぶ いわさき しんご しんぶ	日本カトリック障害者連絡協議会について …… 長崎教区福音化推進部 岩崎 晋吾 神父	9
しょうがいしゃ わたし しんこう すがた さが もと	③ 障害者から私たちの信仰のあるべき姿を探し求めて！⑦	
だれ と の こ にほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかい しょうれんふくかいちょう たなか みのる	誰ひとり取り残されない … 日本カトリック障害者連絡協議会(力障連)副会長 田中 実	10
やくいんかい けんとうじこう けっていじこう じむきょくちょう こいけ まさお	役員会の検討事項と決定事項 …… 事務局長 小池 政男	11

かんとうげん 巻頭言に代えて

たいこうせつ むか 待降節を迎えて みなさま ねが 皆様へのお願い

にほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかい ささ かい
日本カトリック障害者連絡協議会を支える会
かいちょう まえだ まんよう すうききょう
会長 前田 万葉 枢機卿

しゅ へいあん 主の平安

たいこうせつ むか あたら てんれい ぼう
待降節を迎えて、新しいミサ典礼も始まり
ましたが、皆さまにはご清祥の事とお慶び申
し上げます。シノドス年にふさわしいクリス
マス、「神とともに歩む教会」となりますよ

うに。
しんがた かんせんしやう だい は すこ
新型コロナウイルス感染症の第7波も少し
とうげ こ かん さいまんえんじ
峠を越えた感がありますが、最蔓延時には
きょうかい じき
教会もミサができないという時期もあり、ま
しさい しんと みな かんせん
た司祭のみならず信徒の皆さんも感染された
ひと おお ころ みま もう あ
人が多く心よりお見舞い申し上げます。
にほん しょうがいしゃれんらくきょうぎかい い か
日本カトリック障害者連絡協議会（以下カ
しょうれん ねん がつ
障連という）では、2019年11月のフランシ
きょうこうさま ほうにち さい ちゆうおうきょうぎかい
スコ教皇様の訪日に際しては、中央協議会か
しょうがいしゃたいおう ようせい う どうきょう
ら障害者対応の要請を受け、東京ドームの
きょうこうさま じょうきょう
教皇様ミサでは、インクルーシブな状況で
かいさい ぜんめんでき きょうりよく みごと
開催することに全面的に協力し、見事やり遂
げることができ、参加した障害者からは大き

な評価を得ることができました。

またその前年2018年に横浜教区で第13回全国大会を開催し、次回は2021年に長崎教区で全国大会を開催することが決まりました。

しかし、新型コロナウイルス感染症が大変広く広がりを見せ、大会の開催は見送られたままの状態にあります。

長崎教区では着々と準備を進めていただいております。カ障連会長はじめ役員の方々とともに、コロナ禍により全国大会も現在のところ2023年の秋には開催したいと準備を整えていると伺っています。またカ障連では役員会も対面で開くこともできず、カ障連の事業も滞る状況の中でも、次への活動への準備は着実に進めていると報告を受けています。

今、全世界が大きな転機を迎えている状況の中、障害者問題で見ると9月に、国連の機関から障害者権利条約を批准した日本の取り組みに対して、特別支援学校や精神障害者への取り組みに対し、厳しい評価を受ける等課題が示されており、長崎大会の早い開催が障害者からは期待されているものと云えます。

「長崎県と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が、ユネスコの世界遺産に認定され、全国各地から長崎大会への期待も大きくたくさんの方々の参加が見込まれ、経済的にも困難な会員も等しく参加できるよう支援を目標しております。昨年も当「支える会」に100万円近い支援金をいただきましたことを心から感謝申し上げます。

来年は特に、多くの資金を必要としており、困難を抱える障害者も長崎大会に参加できるように今年も全国の信徒をはじめ小教区、修道会、学校・幼稚園、施設・団体関係者の皆さまにご寄付をお願いする次第です。つきましては振込用紙を同封させていただきますので、よろしくご支援ご協力をいただきます

ようお願いを申し上げます。

「クリスマス インマヌエルや シノダリティ」

祈りのうちに

インクルーシブ防災への期待

副会長 田中 実

インクルーシブ防災とは、障害者や高齢者を含む、あらゆる人を取り残さない防災という考え方です。地震、台風、大雨、感染症などの災害により、障害のある方や、高齢の方が犠牲になることが増えています。

災害時に「誰も取り残さない」「避難行動要支援者」への対応は緊急度がまっています。誰も取り残さないといっても、支援を求める声が届かない人たちがたくさんおられることにも注意が必要です。

これから高齢者が国民の4割に近づき、その4割が独居になり、2割が認知症になると言われています。災害が起こる度に避難行動要支援者の犠牲が増えます。支援対象は、災害時に特に配慮を要する（避難が出来づら）い高齢者・障害者・病者・乳幼児・妊婦・外国人など幅広く多様性があります。災害時の避難だけでなく、その後の健康管理、生活安全などは個別支援計画として福祉・医療・行政・地域の協力が不可欠になります。

私たちカトリックにおいては、自身の命と安全を守ると同時に、家族や教会共同体、地域、社会との関わりが大切になってきます。教会は地域での連携協力も大切な役割になり防災と福祉の拠点、共助の要になることもあります。

一方、公助として、国の防災・福祉制度が改定されても執行する自治体が把握に追いつかないとか、地域の自治会・自主防災会がその対応に動かない状態もあります。私たちが

はあく じょうほう たいおう かなが
把握しておくべき情報と対応をしっかりと考
えておきましょう。

わたし ぼうさい うご
私たちがインクルーシブ防災に動くこと
によって、社会の弱い立場にある方への
合理的配慮・障害者差別解消法などの課題も
浮き彫りになります。この機会にしっかりと
考えてみましょう。

ぼうさい インクルーシブ防災について

がつ にち ごうう さい かなが こと 9月23日の豪雨に際して考えた事

しよきたんとう かなりしや
書記担当・かなのすまい管理者

よこい けいすけ
横井 圭介

がつ にち よる わたし す しずおかし
9月23日の夜、私の住む静岡市で
せんじょうこうすいたい ごうう はつせい
線状降水帯による豪雨が発生しました。24
じかんうりょう こ こ げつぶん こ
時間雨量が400ミリを超え、1カ月分を越え
る雨が1日の間に降ったという、すさまじい
うりょう
雨量でした。

か ごぜん じ わたし いえ ほん よ
24日の午前2時ごろ、私は家で本を読ん
でいましたが突如停電し、諦めて寝ました。
かみなり な
雷がずっと鳴っていたので、それがどこかに
おちて いてん
落ちて停電したんだろう、そんな事を考えて
いました。

7時過ぎに目が覚め、トイレに行ったら
でんき つつ まめでんきゅう き
電気が点かず「あ、豆電球が切れたのか」と
おも しか げんかん でん
思いました。そして変えたばかりの玄関の電
き つつ とき いてん
気をつけたら点かず、その時に「まだ停電
がつつ かん しょくば じょうし
が続いていたのか」と感じ、職場の上司に
れんらく と
LINEで連絡を取りました。すると、いつま
で たつても きてんが つかず、おかしいな おも
かなの家にも車で行きました。外に出て驚い
いたのは、信号が全くついていなかった事でした。
しんごう まった こと
よく見たらスマートフォンの5Gの文字
も け
も消えていました。

いえ い いてん
かなの家に行くと、やはり停電してしま
した。ガスと水道は出たものの、停電がいつま
で つづくのか、情報もなく見通しありません

じ いえ ぎょうむいたく
でした。10時くらいにかなの家が業務委託
しているBCP（業務継続計画）の渡嘉敷氏
が あし はこ くだ いろいろ じょうほう え
が足を運んで下さり、そこで色々な情報を得
ました。清水区では床上浸水している地域が
ある事、葵区は大規模停電しているが、土砂
崩れで鉄塔が倒れたことが原因である事、も
しかすると2、3日くらい停電が続くかもしれ
ない事、かなの家から北に車で20分ほど
行った油山地区ではものすごい被害が出てい
ること、そのような情報を得ることが出来ま
した。歩いて5分の所に避難所である小学校
がありますが、大雨の時は道が川のようにな
っていて、そもそも避難できないというスタ
ッフの話もありました。

ラジオでも停電の詳しい情報もなく、
ぼうさいむせん では「水が出なくなったり濁りが生
じている」という放送があり、今後どうなっ
ていくか分からない不安を感じました。

14時に突然部屋中の電気が付き、皆の安
堵の音が湧きました。

きた なんかい じしん こんかい
来る南海トラフ地震では、今回よりももっ
と げん おそ じょうほう
と激しいショックが襲うこと、もっと情報も
さくそう こんどん こと つよ かん
錯綜し混沌があるのだろうという事を強く感
じました。いま さんかんぶ だしや しんすい
今も山間部では土砂や浸水などの
ひがい つつ こうじょ よわ してき
被害が続いていますが、公助の弱さが指摘さ
れています。SNSなどでもボランティアや
ちいき ひと きょうじょ めん こんかい つよ
地域の人の共助という面が今回は強くクロ
ズアップされています。インクルーシブ防災
きょうじょ ふかぶん あらた
と共助というのは、不可分であると改めて
つうかん できごと
痛感した出来事でした。

わ や ぼうさいたいさく 我が家の防災対策について

じむきょくちょう こいけ まさお
事務局長 小池 政男

1 はじめに

わたし す ちきゅう うえ
私たちが住んでいる地球はマントルの上に
うす ちかく ながねん わた た ちかく
薄い地殻があり、長年に渡って絶えず地殻が
うご じしん はつせい かくご
動いているので地震が発生することは覚悟し

ておかなければならないと思^{おも}います。
最近^{さいきん}ではそのメカニズムが段々^{だんだん}と明らか^{あき}になっ^なってまいりました。

ですから今後^{こんご}発生^{はっせい}すると予想^{よそう}されてい^いる、例えば^{たと}は東京^{とうきょう}を中心^{ちゆうしん}とした首都直下^{しゆとちよつかじしん}地震^{じしん}、関西地区^{かんさいちく}を中心^{ちゆうしん}とした南海地震^{なんかいじしん}等^{とう}が今後^{こんご}30年^{ねん}以内に発生^{はっせい}する確率^{かくりつ}が非常^{ひじょう}に高^{たか}まっていると公表^{こうひやう}されています。

現在は国^{くに}、各都道府県^{かくとどうふけん}、市町村等^{しちやうそんなど}では地震^{じしん}の規模^{きぼ}と被災^{ひがい}状況^{じやうきやう}等^{とう}が検討^{けんとう}されていて、私たち^{わたし}もホームページ等^{きぼ}で把握^{ひがいてい}することが出来るようになりまし^した。

皆さん^{みなさん}が住^すんでいる地域^{ちいき}でどの位^{くらい}の規模^{きぼ}の地震^{じしん}がいつごろお^おき、建^た物の崩^{くずれ}壊^壊、液^{えき}状^{じやう}化^化、火災^{かさい}状況^{じやうきやう}、海岸^{かいがん}沿^そいでは津波^{つなみ}の高^{たか}さ、河川^{かせん}の氾濫^{はんらん}、山^{やま}や斜^{しゃ}面^{めん}の土砂崩^{どしゃぼん}壊^壊箇所^{か箇所}を把握^{はあく}し、その対策^{たいさく}を皆さん^{みな}が検討^{けんとう}し準備^{じゆんび}しておかなければ尊^{とう}い命^{いのち}を失^{うしな}うことになりかねません。

カ障^{しょう}連^{れん}としても昨年^{さくねん}2021年^{ねん}12月^{がつ}12日^{にち}にインクルーシブ防^{ぼう}災^{さい}（誰^{だれ}も取り残^{のこ}さない防^{ぼう}災^{さい}）について、講師^{こうし}に温井^{ぬくい}恵美子^{えみこ}氏^し（福祉防^{ふくしぼう}災^{さい}コミュニティ協^{きやうかい}会^{かい}・上^{じやう}級^{きゆう}コー^こチ）をお迎^{むか}えした研修^{けんしゆ}セミナーをZoomで開^{かい}催^{さい}いたしまし^した。（内容^{ないよう}は機関誌^{きかんし}「わ」95号^{ごう}（2022.4.09発^{はつ}行^{こう}））

そこで私^{わたし}は避^ひ難^{なん}は一般^{いぱん}の避^ひ難^{なん}所^{じよ}のほかに障^{しょう}害^{がい}者^{しや}、高^{こう}齢^{れい}者^{しや}、病^{びやう}者^{しや}の避^ひ難^{なん}所^{じよ}として福祉^{ふくし}避^ひ難^{なん}所^{じよ}が別^{べつ}に設^{せつ}置^ちされる制^{せい}度^どになっ^なっていること^{こと}を初^{はじ}めて知^しることが出来^{でき}ました。

今^{いま}までは防^{ぼう}災^{さい}対^{たい}策^{さいさく}をし^しておかなければと思^{おも}いながら中^{なか}々^{なか}出来^{でき}ませんでした^しが、この研^{けん}修^{しゆ}セ^せミ^みナ^なーによっ^よつて、徹^{てつ}底^{てい}的^{てき}に検^{けん}討^{とう}し準^{じゆん}備^びする^すこと^{こと}にいたしまし^した。それが自^じ分^{ぶん}や家^か族^{ぞく}の命^{いのち}を救^{すく}うこと^{こと}になる大^{たい}切^{せつ}なこ^ことだ^だと感^{かん}じま^まし^した。そこで今^{いま}まで私^{わたし}が色^{いろ}々^{いろ}と調^{しら}べ、対^{たい}策^{さいさく}を取^とっ^とてきたこと^{こと}を一^{いち}例^{れい}として少^{すこ}しでも皆^{みな}様^{さま}にも参^{さん}考^{こう}になれ^ればと思^{おも}い掲^{けい}載^{さい}させ^せて頂^{いた}く事^{こと}にいたしまし^した。

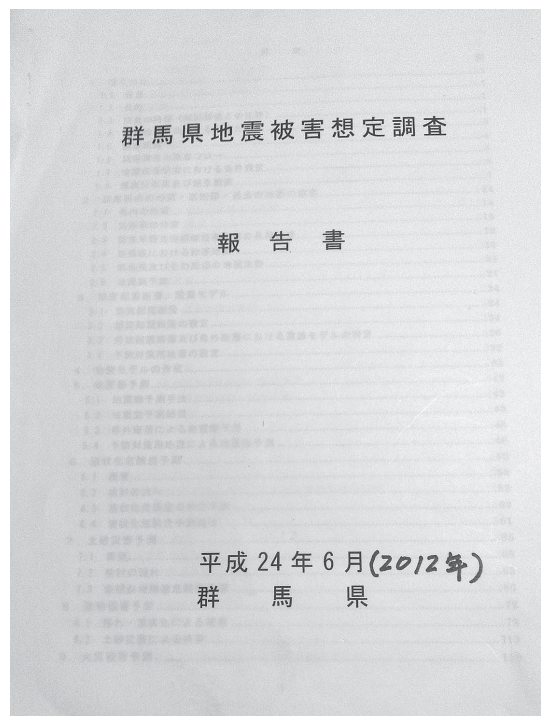
2 防^{ぼう}災^{さい}対^{たい}策^{さいさく}にあ^あた^あつての把^は握^{あく}し^してお^おかな^なけ^け

ればならないこと

(1) 前^{ぜん}述^{じゆつ}しまし^したが自^じ分^{ぶん}が住^すんでい^いる所^{ところ}でどの位^{くらい}の規^き模^ぼの地^じ震^{しん}が發^は生^{せい}し、建^た物^{ぶつ}崩^{くずれ}壊^壊や火^か災^{さい}、津^{つな}波^み、河^か川^{せん}氾^{はん}濫^{らん}、土^ど砂^{しゃ}崩^{ぼん}壊^{かい}等^{とう}があるか。電^{でん}氣^き、ガ^がス、水^{すい}道^{どう}等^{とう}のラ^らイ^いフ^ふラ^らイ^いン^んがどの程^{ていど}度の被^ひ害^{がい}を受^うけ、復^ふ旧^{きゆう}にどのくら^{くら}い^いかか^かるのか^かを把^は握^{あく}し^してお^おく必^{ひつ}要^{よう}があ^あると思^{おも}います。

(2) 群^{ぐん}馬^ま県^{けん}の調^{てい}査^さ報^{ほう}告^{こく}書^{しよ}
私^{わたし}は群^{ぐん}馬^ま県^{けん}庁^{ちやう}へ行^いき、県^{けん}とし^{して}の地^じ震^{しん}發^{はっ}生^{せい}規^き模^ぼとそ^その被^ひ害^{がい}想^{さう}定^{てい}がど^どのよ^ように検^{けん}討^{とう}され^れてい^いるの^のか伺^{うかが}いまし^した。県^{けん}は1回^{かい}目^めは阪^{はん}神^{しん}・淡^{あわ}路^じ大^{だい}震^{しん}災^{さい}時^じ、2回^に目^めは2011年^{ねん}の東^あ日^{ひが}本^{ほん}大^{だい}震^{しん}災^{さい}後^ごの翌^あ年^{ねん}に調^{てい}査^さを^してい^いて、ま^またそ^その^の内^{ない}容^{よう}をホ^ほーム^まペ^ぺー^いジ^じに掲^{けい}載^{さい}して^いるこ^ことを^を知^しり^りま^まし^した。他^{ほか}の都^と道^{どう}府^ふ県^{けん}でもあ^あると思^{おも}いま^ます^すので調^{しら}べ^べて^てみ^みて^てく^くだ^ださ^さい。細^{こま}か^かく載^のっ^って^てい^いま^ます。

(3) 高^{たか}崎^{さき}市^しのハ^{たか}ザ^{さき}ード^しマ^しツ^しプ
高^{たか}崎^{さき}市^しか^から^らはハ^{たか}ザ^{さき}ード^しマ^しツ^しプを^をも^もら^らっ^って^てき^きま^まし^した。掲^{けい}載^{さい}内^{ない}容^{よう}は浸^{しん}水^{すい}だ^だけ^けで^でな^なく各^{かく}避^ひ難^{なん}所^{じよ}の^の位^い置^ちや^や避^ひ難^{なん}対^{たい}策^{さいさく}等^{とう}色^{いろ}々^{いろ}な^な内^{ない}容^{よう}が掲^{けい}載^{さい}され^れて^てい^いて^て非^ひ常^{じやう}に参^{さん}考^{こう}にな^なり^りま^まし^した。視^し覚^{かく}障^{しょう}害^{がい}の方^{かた}は点^{てん}字^じ版^{ばん}等^{など}を希^き望^{ぼう}し^して^てく^くだ^ださ^さい。も^もし無^なけ^けれ^れば^ば至^し急^{きゆう}作^{たく}っ^って^て欲^ほしい^いと^と要^{よう}求^{きゆう}し^し



高崎市 ハザードマップ

災害から身を守るために

平成 30 年 9 月発行

自分で命を守る
避難や対応を
決断できるのは
あなた自身

地域で助け合う
みんなで逃げる
みんなで助かる

市の防災対策
災害から
命を守る対策
を進めています

災害から身を守るためには、避難するなど必要な自身の対応が必要です。自分は大丈夫と思いついたり、誰かに頼りきりになって、自分の命は自分で守るといった姿勢を失ってはいけません。

地域の災害を知る

- ハザードマップを使って
赤や黄色の危険な
箇所を確認
- 避難先を確認
●避難先の確認
●進入方法の確認
- 避難場所と家員の確認

命を守るために、準備を怠らぬ

災害の危険が迫ったとしても、ひとりではなかなか避難を判断できません。また、地域には自力で避難が難しい方もいます。多様な方だけでなく、地域のみなどの避難や助け合いを確認しておきましょう。

地域のみならず知る

- 音階からの声かけ
●避難の支援が必要な
方の確認
- 避難方法の確認

声をかけよう、みんなが助かる

- 避難のときの
声かけ

市では避難を助けるためにいろいろな防災対策を実施しています。

**いろいろな災害からの
避難の時の声かけ**

- 防災スピーカー
- 広報車の巡回
- 安心ほっとメール
- テレビ、ラジオ高崎

災害専用電話
027-321-5000

災害時、避難が必要となつたときに自力での避難が困難な方は電話でください。市の公用車またはバスによる避難支援を行います。

お問い合わせ先 高崎市総務部防災安全課 027-321-1352

地盤サポートマップfor U

基本情報 住所 高崎市上中居町 5 3 4-1 5 付近
地形 台地・段丘
地質 約170万年前～現在に形成された岩盤な
だれの堆積物
標高 90.3m

防災情報

地震時の揺れやすさ	1	2	3	4	5
液状化の可能性	1	2	3	4	
浸水の可能性	0.5m	0.5m~1.0m	1.0m~1.5m	1.5m~2.0m	2.0m以上
土砂災害の可能性	無	有			

地震をチェックした後は、お住まいの準備を確認しましょう!
こくみん共済coopの災害に備える保障

住まいる共済

住まいる共済の詳しい情報は「こちら」のリンクまたはQRコードからチェック!

※地盤サポートマップは、ジオンホームシステム株式会社提供のサービスです。記載された災害発生地の種類について、その内容を正確とするものではありません。詳しくは専門機関（国土院等）に問い合わせください。また、本マップはあくまで参考情報としてご利用ください。また、本マップはあくまで参考情報としてご利用ください。また、本マップはあくまで参考情報としてご利用ください。

いただく事が障害者差別解消の一助になると思っています。

緊急時の連絡先も表示されているので高齢者、病者、障害者等は状況を説明して福祉避難所に指定してもらおうようにしてください（連絡先は各市町村のハザードマップ等で事前に確認しておくこと）。

(4) 火災保険会社等からの調査
私が加入している火災保険会社にお聞きしましたら、我が家の位置での地震での揺れやすさ、液状化の可能性、浸水の可能性、土砂崩壊の可能性についてランク表示してあるものを頂く事が出来ました。驚きました。保険会社も独自に把握していることを知りました。

(5) 家族で避難所を決定しておくこと
地震はいつ起きるか分かりません。家族がバラバラの時には家族がどこに避難したのかわかりません。探すのは大変です。あらかじめ家族で避難所の順位を決めておくことが大切だと思います。

一般的な避難所はハザードマップに掲載されていますが、障害者等の福祉避難所は掲載されていないと思いますので、市役所等の防災窓口でよく聞いて把握しておく必要があると思います。命に関わることであります。

3 福祉避難所について
福祉避難所に直接避難するためには事前に個別計画を市町村に申請しておかなければなりません。その体制が出来ている市町村は全国で10%位しかないそうです。寂しい限りです。私がある市でも市役所内の各関係機関の調整が難しいとのことで残念ながら出来ていないそうです。

個別計画が出来ていない場合は、障害者や、高齢者、病を抱えている人等でも、一旦は一般の避難所に行き、色々と不都合が生じた段階で担当者に説明して了解をもらってから福祉避難所に行けるとのことですが、それでは大変と強く言いましたところ、ハザードマップに緊急時の電話番号が書かれているので、そこに連絡して事情を説明し福祉避難所に行ってくださいということでした。

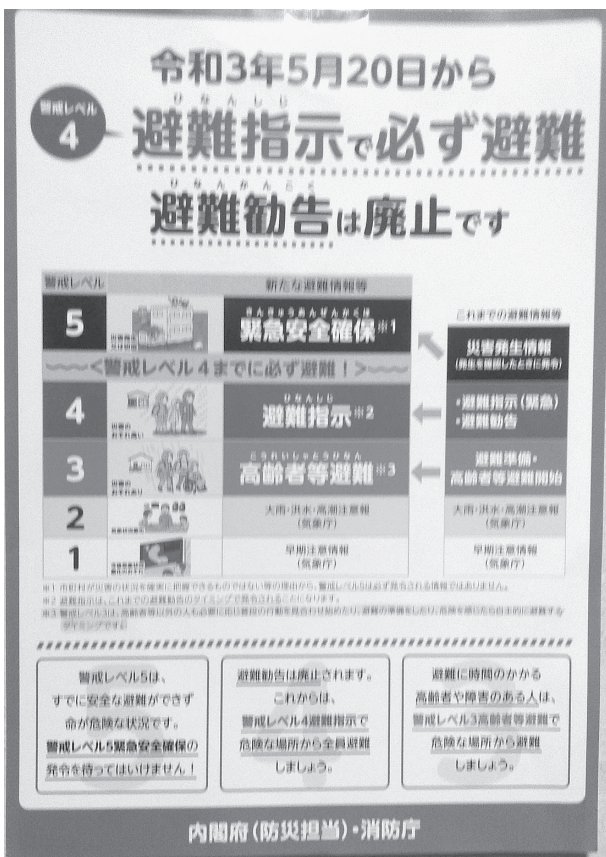
ですから皆さんも事前に連絡先を把握しておいて、すぐ電話が出来るようにしておく必要があると思います。

障害者や病者等が過去の災害時に一般の避難所に行った際、特に障害特性として動き回ったり、大きな声を出してしまうような場合や、排泄障害などによる臭気等、周囲の人たちから色々と非難され、仕方なく壊れた自宅に戻ったり車生活をしているうちに体調を崩して1カ月以内に亡くなってしまう方が多いとカ障連の研修セミナーで知りました。最初から福祉避難所に入れるように準備することが大切だと思います。

高崎市は福祉避難所として、福祉施設や地区の長寿センター等が指定されるそうです。事前にどこの福祉避難所に入りたいかを決めて災害時に交渉する必要があると思います。

4 避難介助支援体制

65歳以上の高齢者や障害者の方たちには



内閣府による警戒レベル
高齢者、病者、障害者は警戒レベル3で避難すること

避難誘導支援要請を事前に届け出ておけば警察、消防、民生委員等が支援に来てくれる制度がありますが、実際のところ、過去の例で言えば、災害時に駆け付けることは難しいようです。もちろん申請しておくことは必要だと思いますが、それだけでなく確実な近くの友人、知人に日頃からお願いをして良く親交を深めておくことが一番大切なことだと思います。

5 避難所に避難出来ない場合の準備

すぐに避難所に行けるかどうか分かりません。そのためには自宅にも避難生活が出来るための必要な物を揃えておく必要があると思います。

6 我が家の災害対策

我が家は北関東の高崎市（人口37万の中核市）で市街地、近くには河川もないので浸水地区には入っていない平坦なところで。家屋は2階建ての築47年の古い木造です（古い建物ほど崩壊率が高い）。

以前は2階が寝室でしたが、今は高齢化に伴い1階を増改築して1階で全て生活しています。

(1) 家具の転倒防止と窓ガラス対策

① タンス等は壁の中に「はめ込み式」にしています。その他テレビ等は転倒防止対策をしています。

② 1階の窓ガラスは増築した時に割れにくく、例え割れたとしてもひび割れだけで飛び散らない特殊なガラスにしています。

(2) 我が家の避難所

先ず我が家が全壊または半壊してしまうと想定しない限り事前の準備をすることは出来ません。且つ避難所に行けない場合を考えてテントかとも考えましたが、我が家は幸いにもプレハブ物置がありましたのでテントよりマシと考えて、その中に入った使い古しの電気製品等全て整理して、そこに古いマット

なんじゅう し じしん き と き
 を何重にも敷いて、地震が来た時にはいつでも二人で住めるようにしました。時々マットなどほしています。棚には備蓄品が置いてあります。更にプレハブがある庭に雨水がたまらなように屋根の雨水は直接排水口に流せるようにしました。

①雨が強くなると近くの道路排水が本線に流れず逆流して我が家の近くまで押し寄せてきたことがありましたので、門扉からの流出を防ぐための土のうを準備しています。土のうは一般的に袋に土を入れて作るのですが、今は水を入れて作るものもあります。

②備蓄品 約3日分を準備します
 飲料水、レトルト食品、缶詰、食器用品、カセットコンロ、簡易トイレ、懐中電灯及び電池、ラジオ、ソーラー式充電器、笛等の緊急用品、土のう（水を入れる）、



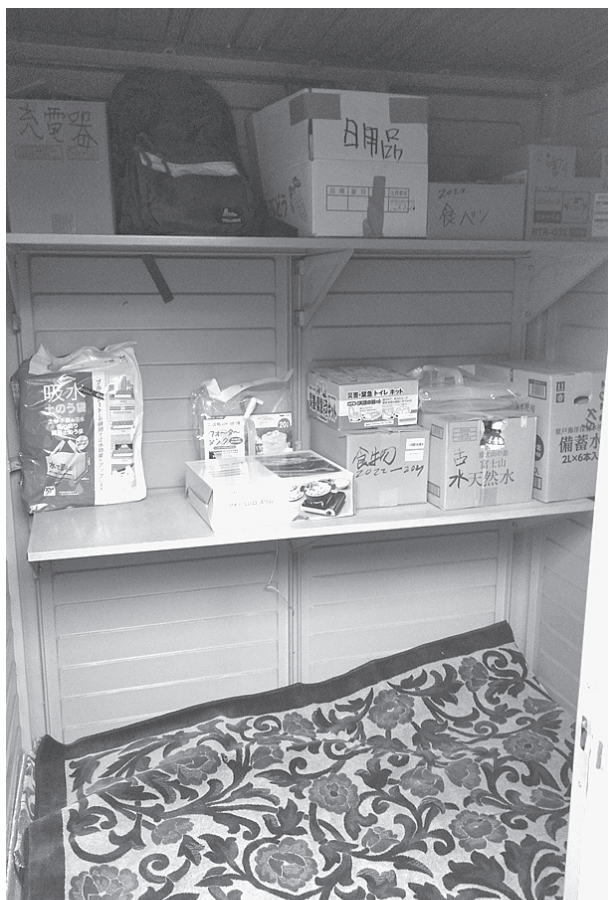
我が家の主な防災グッズ
 (土のう、ウォータータンク、災害時用トイレ、カセットコンロ、ソーラー式充電器、電池式ランプ、手動発電式ラジオ)

しょうかき こがた とく かんが じゅうでんき
 消火器(小型)、特に考えたのは充電器で、ソーラーで充電出来ます。これがあれば夜でも明るく、かつ携帯電話等の充電が出来、色々な情報をいつまでも得ることが出来ます。

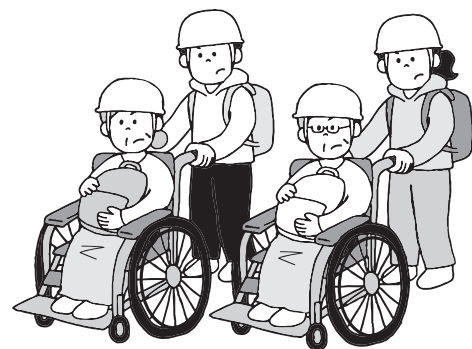
またカセットコンロがあれば温かい調理もできますし、寒い時は暖房にもなります。

これらの物はホームセンター等の防災コーナーで必要な物を買うことが出来ます。

以上、少しでも皆さんの参考になればと思
 い我が家で実施したことをまとめてみました。いつ来るかわからない地震等の災害で、自宅が崩壊することを前提に考えない限り事前対策は出来ないと思います。皆様の命が守られるよう、事前の備えをしっかりとっておきましょう。



我が家の避難所 (物置室内)



しょうれん はじ 力障連Zoomカフェ始まる

あら なかま であ
～新たな仲間と出会うために～

かんじ きくち ひではる
監事 菊地 秀治

しょうれん だい 13 かつどうけいかく かだい
力障連では、第13期活動計画の課題1と
して「全国の障害のある仲間を知る」という
もくひょう かか やくいんかい か
目標を掲げている。役員会ではコロナ禍にあ
って急速に普及したオンライン会議システム
にきゆうそく ふきゆう かいぎ
に着目し、全国の仲間と力障連役員が気軽
にたいわ きかく おお
に對話する「Zoomカフェ」を企画、多くの
なかま であ こえ き あら
仲間と出会うリアルな声を聴くための新たな
こころ はじ
試みが始まった。

だい 1 かいめ がつ にち にち ほっかいどうさっぽろし
第1回目は7月23日（日）北海道札幌市・
オリーブの会14名、第2回目は8月6日
ど ほっかいどうつきがたちょう ゆき せいぼえんりようしゃ めい
（土）北海道月形町・雪の聖母園利用者4名、
しょうれん はなふさしほかえどかいちやう
そして力障連からはそれぞれ英師他江戸会長
やくいんすうめい さんか ぶんていど みじか じかん
など役員数名が参加、30分程度の短い時間
ではあるが和やかな交流が行われた。

オリーブの会との交流では、長崎大会で
「オリーブの会の分科会」を設けようという
みち ひら かい けいしき
道が開けたこと、「Zoom形式でこのように
ちやくせつはなし よ たいけん
直接話をする事ができてとても良い体験だ
った」「全国のオリーブの会の情報が聞けて
ぜんこく かい じやうほう き
良かった」「広報誌は文字ばかりで疲れて読
よ ころほうし もじ つか よ
む気がしない」などの率直な意見が寄せられ
き そっちよく いけん よ
たこと、雪の聖母園との交流では長崎大会へ
ゆき せいぼえん こくりゆう ながさきたいかい
是非参加したいという希望が聞かれたことな
ど、初めての「Zoomカフェ」は、今後のカ
しょうれんかつどう かんが うえ たいへんゆういぎ じかん
障連活動を考える上で大変有意義な時間とな
やくいんかい こんご ていきてき
った。役員会では今後も定期的に「Zoomカ
じっし
フェ」を実施したいとしている。



ながさききょうくほう しょうれんかんけいきじばつし 長崎教区報より力障連関係記事抜粋

しょうれんほつそくながさきたいかい む 《力障連の発足と長崎大会に向けて》

しょうがいしゃ わたし しんこう
障害者から私たちの信仰の

すがた さが もと
あるべき姿を探し求めて！⑤

い 癒やし（＝愛の実践）は、教会の本質

ながさききょうくふくいんかすいしんぶ
長崎教区福音化推進部

いわさき しんご しんぶ
岩崎 晋吾 神父

にほん しゃかいふくし せいど せんごま じ
日本の社会福祉の制度は、戦後間もない時
期において、せんそうひさいしゃ ひきあげしゃ きゆうぞう
期において、戦争被災者、引揚者などが急増
する中で、なかせいかんけい
生活困窮者対策を中心に始まり、
その後、けいざいせいちょう きゆうそく ほんてん と
その後、経済成長とともに急速に発展を遂げ
ていきました。ながさききょうく
長崎教区では、この制度以前
からながさきちく でんせんびやう くる ひとびと
長崎地区において、伝染病で苦しむ人々
や孤児たちのため、しもごと うとうじなか こうぜん
下五島では当時半ば公然
と行われていた間引きされる子どもたちのた
め、またかみごと ほくしやう ひらどちいさ
上五島、北松・平戸地域でもブレ
ル師、マトラ師を中心にしやかい たく じよせい
司祭と特に女性の
ほうししゃ たす ひつよう ひとびと せ わ
奉仕者たちが助けを必要とする人々の世話を
し、イエスの愛の業を実践して現在の社会福
しじぎやう ぜんしん
祉事業の前身となっていました。こうして
250年以上のねんじやう せんぶくじだい へ あたら じ ひ
潜伏時代を経て、新しい慈悲の
くみ い じぜんかつどうたい う
組とも言える慈善活動体が生まれていくこと
になります。

このようにながさき きょうかい くる ひとびと
長崎の教会は、苦しむ人々に
寄り添い、よ そ ちいきしやかい ふか まじ なか
地域社会と深い交わりの中にあ
ったのですが、せんごじぜんかつどう せいどか
戦後慈善活動が制度化され、
じぎやうか なか きょうかいきやうどうたい じぜんかつどう
事業化されていく中で教会共同体と慈善活動
はじよよ き はな かつどう とくてい せんもんてき
は徐々に切り離され、活動は特定の専門的な
ひとびと ゆだ しゃかいふくし ぶもん かくりつ
人々に委ねられ社会福祉という部門が確立し
げんざい いた しゃかいふくし ほうてきせいび
て現在に至っています。社会福祉の法的整備
がなされる時流の中で、きやうかいきやうどうたい しめい
教会共同体は使命と
していたじぜんかつどう てばな
慈善活動を手放していくかたちとなり
ました。

すこ まえ にほん
少し前のことになりますが、日本のカトリ

キリシタン教会における各教区の小教区社会福祉活動に関する調査が行われました(2005年)。

それによりますと長崎教区におけるカトリック社会福祉施設の数、全教区で最も多い80施設。これに対して小教区が社会福祉活動を行っている割合は8%です。以下、東京教区では小教区の福祉活動36%(福祉施設数66)、横浜教区は同22%(福祉施設数55)、大阪教区は同43%(福祉施設数51)などとなっています。また、長崎教会管区の各教区における小教区福祉活動の割合は以下の通りです。福岡13%、大分1%、鹿児島4%、那覇3%。

アンケート回答に限られた結果ですので正確なデータではありませんが、各教区の中でどこがカトリック社会福祉の担い手となっているかという傾向はつかめます(資料『東北アジアにおけるカトリック社会福祉の歴史的研究』長崎純心大学)。

時代の流れの中でいかなる事情があっても教会はイエスの業を失うことはできません。福音書で物語られているイエスの業は次の3つです。「共食」、「福音を語り伝えること」そして「癒やし(愛の実践)」です。

ベネディクト16世はその回勅の中で「時が経ち、教会が広がると、愛の実践は、秘跡執行とみ言葉の告知と並んで教会が行う基本的な活動の一つとして確立しました。やもめや孤児、囚人、病気の人、また、あらゆる種類の困っている人を愛することは、秘跡の奉仕、福音の告知の務めと同じように、教会の本質に属します」(回勅『神は愛』22)と語られ、イエスの愛の実践が大切な教会の本質の一つであると教えておられます。

イエスは、愛の実践を失った当時の宗教指導者たちを非難します(マタイ23・1-7、マルコ3・1-6、ルカ10・25-37)。宗教儀式や教義には手を付けるが、社会の周縁で苦し

む人々には指一本触れようとしなかったからです。そこでイエスは愛の実践を伴う新しい共同体を生み出していきます。それがわたしたちの教会です。キリシタン時代の教会も迫害から復活した長崎の教会もその本質を忘れることなく生きてきました。そして今日、私たちも同じ教会の命の延長線上に生きているのです。

障害者から私たちの信仰のあるべき姿を探し求めて! ⑥

日本カトリック障害者連絡協議会について

長崎教区福音化推進部

岩崎 晋吾 神父

日本カトリック障害者連絡協議会(以下カ障連)は、1981年教皇ヨハネ・パウロ2世の来日をきっかけとして、それまで各地で個々に活動を行っていた障害者の団体が、社会の福音化のために大きな力となるよう一つとなって発足された連絡機関です。1982年7月に名古屋を本部として結成されました。カ障連のシンボルマークとして描かれている「わ」ですが、当時の教皇様がデザインなさっています。一つの「わ」と「十字架」が合わさったシンボルマークですが、「わ」の部分にはみんなが一つの輪となって一緒に進むことを、「十字架」にはキリストの精神を歩むことを、この2つのことが意味付けられています。

カ障連では発足当時から3年に1度の割合で全国大会(総会)を実施しています。第1回は1982年京都で開催され、大阪、横浜、仙台、東京、広島、高崎、大阪、東京(2回目)、新潟、名古屋、札幌、横浜(2回目)と13回開催されてきました。今回は長崎で開催が予定され、本来ならば2021年の予定

でしたが、コロナ禍の影響もあり来年（2023年）以降に延期されています。

この長崎での開催には大きな意味が込められています。まず開催地を見て分かる通り、九州での開催は初となります。カ障連発足から40年近くたっていますがなぜ九州では開催されなかったか、すべてに関していえることではないですが、それは「障害者」に対しての向き合い方の違いが出ていると思います。バリアフリーということを取ってみてもとらえ方の範囲が小さく、聖堂内や教会敷地などに限定的に考えてしまいます。そこには「教会」が考えの中心にあるからで、「社会の中の教会」であることを意識していないからです。多くの人を迎え入れられる「開かれた教会」を目指すにはこの考えを一新することから始めなければいけません。

2つ目は、この全国大会を長崎で開催することにより、障害者をより身近に、また考える機会になってほしいとの願いも込められています。全国大会参加者を迎え入れる体制を作り上げるためには何が必要か、どうやらよいものができるだろうか、カ障連のシンボルマーク「わ」のように気持ちを一つにしてキリストの精神に基づいて考えることが福音への新たな道筋へとつながっていくのだと思います。

今後、「障害者」「福祉」などさまざまなテーマを皆さんと一緒に考えていかなければなりません。まずは、障害者のための全国大会が長崎で行われるということに重きを置き、私たちの活動が主に導かれるようみことばに耳を傾けながら、聖霊が働くような意識の改革を行い、今後の教会とはどうあるべきなのかを改めて考える機会にしなければいけないと考えています。

障害者から私たちの信仰のあるべき姿を探し求めて！⑦ 誰ひとり取り残されない

日本カトリック障害者連絡協議会〔カ障連〕
副会長 田中実

カ障連役員としての関わりは10年になります。宮永前会長時代は事務局長でした。私とカ障連との出会いは36年になります。カ障連機関誌「わ」を購読したことからです。大阪教区カ障連大阪フレンドリーで長く活動をしてきました。

私は発達障害吃音症

私は発達障害吃音症です。この障害は、この10年吃音臨床医学の発展により脳機能障害であることが解明されました。遺伝子的にも特徴がありさまざまな吃音症状があります。社会的に理解を深めることが難しく、吃音当事者本人の性格や努力不足として差別されてきた面があります。自閉症や社交不安障害との併発が多くみられます。黙っていれば障害が見えない、無口なら分かりづらいこともあります。カ障連の全国大会で吃音障害を提起してきましたが、吃音はたいした問題ではない、もっと苦勞をされている障害者がたくさんいる、なぜ治す努力をしないのかと逆に責められる出来事もありました。

自立するためにチャレンジをしました

私は緊張する方が話しやすいのですが、特定の発音は難しいです。ごミサで聖書朗読もしますが、発音ができない箇所がたくさんあります。意味不明な発音が度々出ますので、私の朗読は荘厳で整然としたごミサとは縁遠いです。でも、吃音はありのままに出します。聖堂内が“凍りついてしまっ

も”です。誰もが取り残されないごみサへの完全参加です。小教区の意識が変わっていけばと信徒会長の役も何度か担当しました。

インクルーシブ（みんな一緒に）防災地理的に自然災害に弱い長崎、高齢化も進み健康が脅かされる、災害時の避難が困難、それらは、私たちに命と安全を守る努力を訴えています。

私は防災・BCP（事業継続計画）のコンサルタントを仕事としています。災害時の避難行動要支援者対応、介護施設BCPなどにも力をいれています。残念ながら公助への期待は無理があります。自助・共助が大切です。誰ひとり取り残されない防災が求められています。

教会も避難所としての役割が大切になりますし、災害時に避難行動が難しい方をどのようにフォローできるかを日頃から学び、訓練を重ねておく必要があります。これは誰も取り残されないインクルーシブ（みんな一緒に）な開かれた教会、社会とともに歩む福音の教会だと思います。カ障連長崎大会に向けて動きましょう。

カ障連長崎大会へ参加

来秋（2023年10月14日～15日）に予定されるカ障連長崎大会を成功させましょう。大会に関わる姿勢ですが、私は支援する側・私は支援を受ける側との意識は困ります。新たなチャレンジ、ともに築き上げる行動が大切です。私たちの力で全国に福音の明かりを響き渡らせましょう。



役員会の検討事項と決定事項

事務局長 小池 政男

コロナ禍によって引き続きZoom会議を原則として毎月1回開催しています。今回は2022年5月から9月までの役員会を報告致します。

2022年第17回Zoom役員会 5/26（木）

- アンケートから仲間を知る
 - カ障連として障害者権利条約やインクルーシブ防災を取り上げているが、地方の団体ではピンと来ていない団体もあるのでその団体と直接Zoom会議（通称『Zoomカフェ』）を開催したら良いのではないかと。
 - 教会は高齢者が多く若い人が来ない。若い人で特に精神障害の方たちは引きこもりの人が多いのでその人たちへどう対応していくか考えていく必要がある。
 - 吃音者の団体は、逆に若い人が多く高齢者が少ない。その若者が社会で苦しんでいる。その人たちへどう対応したら良いか考えていく必要がある。
 - 加盟団体とのコミュニケーション向上のため、意見交換会は年1回ではなく2回に増やすよう検討する必要がある。
 - シノドス的に分かち合い、方向性を見出していく必要がある。

第18回Zoom役員会 6/30（木）

- 監事の高橋秀治さんが監事を辞任されたので後任を選出することが決定した。
- Zoomカフェについて
前回検討されたZoomカフェを7/23（土）札幌教区のオリーブの会と開催することになった。役員は当日長崎滞在なので、長崎と

札幌を繋ぎ、Zoomカフェを開催することに
決定する。

3 長崎大会について

- ①開催日は2023年10月14日(土)～15日(日)の2日間を設定して準備を進めていくことになった。
- ②今の準備委員会から実行委員会に移行。10月をめどに立ち上げていきたい。
- ③手話通訳者は長崎で確保できるが要約筆記については支援をお願いしたい。
- ④今もコロナ禍の中で行動が制限されている。
- ⑤長崎で障害者団体を立ち上げたいと考えている。

4 シノドスの分かち合いの開催

残念ながら時間的に全員の意見を聞くことが出来ず方向性を見出すことはできなかった。

第19回Zoom役員会 8/4(木)

- 1 2021年度会計報告と監査報告
特に問題点はなかった。
- 2 高橋秀治監事辞任に対して3人の候補者を挙げて交渉順序を決定した。
- 3 Zoomカフェ開催報告
札幌オーリーブの会(15名)とカ障連役員とZoomカフェ開催。

短時間であったが良い分かち合いが開催出来た。今後も他教区でも開催していきたい。

4 長崎大会について

- ①7/23(土)カ障連役員が中村大司教様を訪問し、長崎大会開催にあたりご支援をお願いした。

②7/24(日)長崎準備委員会にカ障連として参加させて頂き意見交換を行った。

5 長崎大会開催延長に伴い第13期活動の基本的な考え方についての検討

大会及び総会は3年ごとに開催することになっているが、今回はコロナ禍で活動が制限され2年延期となっていることから、第14期とするのが第13期の延長として考えるべきか検討した結果、第13期の延長として考えるべきであると役員会の中では決定した。これを次期総会に合わせて規約改正することになった。

第20回Zoom役員会 9/22(木)

- 1 高橋秀治監事の後任として青野知恵美氏が決定した。次回の役員会から参加することになった。
- 2 規約改正案の検討
協議継続のため協議を終えた後に掲載する。

3 長崎大会について

- ①10/10(月)第1回長崎支部の会議をZoomで開催。今後の会議を重ねることにより理解と参加者が増えていくのではないかと期待している。
- ②長崎の3つの女子修道会に協力要請を行った。

連絡先及びご入会の申し込み先

事務局：〒466-0037 名古屋市中区昭和区恵方町2-15
名古屋教区カリタス福祉委員会室内
日本カトリック障害者連絡協議会
Tel：052-852-1426 fax：052-852-1422

郵便局振替口座番号：00100-7-31254
(同封の振込用紙をご利用ください)

会費：年間1口 1,000円
(団体 10口以上 個人 1口以上)

加入者名：日本カトリック障害者連絡協議会